

第2部ではあきる野市「観光」をテーマにグループで意見交換を行いました。それぞれのグループ発表の内容をご紹介します。

1 グループ 「日帰りの気軽なパッキングツアー」

○観光客がゆっくり休んだり買い物をしたりできる場所が少ないので、アプローチとして五日市駅前拠点を整備したらどうか。花や天然記念物を紹介するパンフレット、観光客を案内するガイド、日帰りの簡単なパッキングツアーなど誰でも参加できる工夫があるといい。秋川沿いを気楽に歩ける川沿いの道やハイキング途中で休めるベンチ、駐車場を整備する。また、るのバスや西東京バス、五日市線の充実を図る。

2 グループ 「四季を通じた観光」

○あきる野市の中で魅力のあるものを春夏秋冬で分けた。例えばバーベキューの夏や花の季節の春はたくさんお客さんが来るが、その季節しか来ない。次の季節にまた訪れてもらえるよう、季節ごとの魅力をPRしたらどうか。冬の観光は課題だが、初心者向けのプチマラソンなど体を動かして暖くなるイベントを開催し、四季をうまくつなげて、1年間を通してあきる野市のファンになってもらえるような流れを作れたらいい。

3 グループ 「日常の中に魅力がある」

○秋川渓谷の川遊び、登山、駅前の皇后様の碑、黒茶屋の中曾根さんの碑、歌笑の碑、水原秋桜子の句など、市内にはいろいろな魅力がある。高明山の石段にかかるあたりがスカイツリーと同じ標高634m。しろやまテラスを中心に野鳥の研修ができるのではないかな。市民が下草刈りや枝を片づけているときにいろいろな野鳥の巣のあとに出くわしたら、そっと取りしろやまテラスへ届けて、実際の巣を見てもらえるようになるといい、とりとめもないが、何か行動すれば動き出すと思う。

4 グループ 「知られざる有名人を活用」

○「怪盗ルパン」をモーリス・ルブランから翻訳した南洋一郎、漫画「タンクタンクロー」を書いた坂本牙城、三遊亭歌笑などがあきる野出身だということをPRして、観光に活用できないかと思います。はとバスツアーを組むために道路の整備が必要。情報誌やポスター、CM、ケーブルテレビなどメディアを活用した宣伝をする。外国語表記のパンフレットや案内板を作り、あきる野の魅力をどんどん発信していく。

5 グループ 「五日市憲法を観光の柱に」

○「議会基本条例」の中にも入っている「五日市憲法」は2年後に発見50年になる。その「五日市憲法」を観光の目玉にし、美味しい食べ物やお祭、お寺めぐりなどのイベントと絡めて、良さを学び伝えていったらどうか。お客さんが来やすいように、交通面の整備をしっかりと行う。そうすればあきる野市はもっとにぎやかになるのではないかなと思う。

6 グループ 「住民一人ひとりが観光大使に」

○市民と行政が一体となり観光行政を進めていかなければならない。観光に携わる人たちだけではなく、住民一人ひとりが地域の魅力を再発見し観光大使となり、発信していく。そのために学習会や講演会を開催し、PRできる観光の目を養っていく。広域な観光宣伝や、訪れた観光客が感動を人に話すロコミが大事。

7 グループ 「遊休農地で観光農園」

○遊休農地を活用して、農業が体験できる観光農園を作っていったらどうか。家族で種をまいて育て、収穫したものをバーベキューで食べ、疲れたら瀬音の湯にゆっくりつかり、宿泊もしてもらおう。畑の管理は地元の農業経験が豊富な人材に委託する。地域の活性化や定住化にもつながるのではないかな。

各グループで出ました様々なご意見は、議会・議員が今後の議会活動に反映していきたいと考えています。